

編集：山田浩司&美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp URL: <http://www.sanchai.net>

ここはDC?それともアラスカ?

東海岸大寒波襲来パート2

この冬は異常に寒い。日中の気温が氷点下10℃というのは身の危険を感じる寒さである。日中外出すると、目から涙が出てきて、それが凍りつく感じがする。格好悪いが、通勤には毛糸の帽子が欠かせない。耳を覆っていないと耳が痛くなるのだ。氷点下10℃以下の世界では、大きな口を開けて息を吸い込むのも怖い。口も覆っていないと危ないかもしれない。そんな中でジョギングするなんて、自殺行為もいいところだ。ポトマック川も数日間凍っていた。

車の運転もヒヤヒヤものだ。先月号「サンチャイ通信」で紹介した「史上最悪のドライブ」を、1月は雪の中で経験した。1月5日(日)は、サンパウロ行きを直前に控えて休日出勤していたが、夕方5時過ぎにオフィスを出るとあたり一面雪化粧で、私はそんな中を、ノーマルタイヤを履いた軽量のクーペで恐る恐る帰宅した。途中衝突事故を起こした車も何台かいた。1月23日(木)は、残業をやっている間に雪が降り始め、夜10時半過ぎにオフィスを出た時には、路上の粉雪が車が通り過ぎる度に宙を舞っていた。この夜もハイウェイでは自動車事故が発生して渋滞していたので、一般道をトロトロと走って帰った。

雪が降ってもアメリカ人はノーマルタイヤで生活する。郡(カウンティ)の除雪車が路上の雪をどかせたり、「アイス・メルター(融雪剤)」を散布して、薬で雪を融かすのだ。自宅の側道は各家庭でアイス・メルターを撒く。この冬はアイス・メルターが品薄で、タイミングを逃すとなかなかスーパーで手に入らない。また、アイス・メルターは要するに塩なので、融けた塩水が車のボディに付いた状態で長く放置すると、車の塗装に影響が出てくる。お陰で週末ともなると洗車施設の付いたガソリンスタンドは車でごった返す。

樹生の学校は、雪の具合によって、休校になったり2時間遅れで授業開始になったりする。千智の保育園は連邦政府が休みにならないと保育園自体が休みにならない。連邦政府が全休になるというのはよっぽどの大雪の時だけなので、千智はなるべく保育園に連れて行くことになる。勿論児童もまばら、先生も遅刻してくることが多いらしい。12月の大雪の時は、子供達も大喜びで外で遊びまくったが、1



厳寒でも、冬場のスキーは絶好調
(2003年2月1日、ペンシルベニア・リパティスキースキー場にて)

月は積雪よりも寒さの方がこたえる。雪もサラサラなので、雪玉1つ作るのすら難しくて、子供達もなかなか外で遊ぼうとはしないし、親もさせない。家の中に閉じ込められる子供達はストレスの塊と化す。

氷点下 10℃くらいで何だと言われるかもしれないが、寒いものは寒い。特に、私の場合はこの1月に気温が 30℃近くあるブラジル・サンパウロに 10 日ほど滞在した。夜行便に 9 時間乗って、ワシントンに戻ったら氷点下の世界だ。最初の数日間は体が全く調節されなかった。氷点下 20℃を下回る北海道には自分は住めないをつくづく思う。(浩司)

本当に今年は世界的に寒いですね。我が家にはサンルームがあるのですが、暖房設備がないため冬の間は天然冷蔵庫になります。今年も冷蔵庫としてビール、ワイン等のお酒や野菜や果物を置いておいたら、日中でも 0℃を越えないときは置いてあった白菜が凍ってしまい、-3℃ではみかんが冷凍みかんになっていました。

今まで車で移動するため手袋は要らなかったのですが、さすがに今年は車に乗っていても手袋が欠かせません。12 年前にカナダにいた時は-40℃という日もあり寒かったのですが、一面雪だと気分も違います。1 月に入ってから雪が降ってもほうきで掃けば済む程度（パウダースノーのため）のことが多く、雪遊びができず残念。スキー場に行って滑りたいと思う今日この頃です。(美澄)

MJのラストシーズン

この冬、バスケットボールにはまる

これまで、「サンチャイ通信」の中で「バスケットボール」といったら、カレッジの試合のことばかりを紹介してきた。プロについてはあまり言及もしていないが、実は今、ワシントンには「神様」がいる。NBA ワシントン・ウィザーズに所属し、2 月には 40 歳の誕生日を迎えようとするマイケル・ジョーダン選手（以下 MJ）だ。

私達は今ワシントンで 3 度目の冬を迎えているわけだが、最初の年はウィザーズの試合を観戦すらしなかった。2 年目は MJ が現役復帰を発表し、復帰先をウィザーズに選んだのをきっかけに、1 回だけ家族で観戦に出かけた。格安のチケットで MCI センターの最上段からすり鉢の底を見下ろす感じの席で、遠すぎて顔まで確認することはできなかったけれど、MJ だけは動きが違ってよくわかった。ウィザーズは若いチームなので、MJ が故障で欠場することが多くなった終盤は連戦連敗で、結局 1 試合しか観戦していない。そして今年…

私達の環境で変わった点を挙げると、先ず世銀の日本理事室に田染さんというバスケットをよくご存知の方が着任された。観戦相手を募集中だったこともあり、12 月に 2 人でユタ・ジャズ戦観戦に出かけた。シカゴ・ブルズでの MJ の全盛期に、そのライバルとしてならしたジャズのストックトンやマローンが未だ健在で、2 人で大喜びした。そして 1 月、私の JICA ネパール事務所時代の同僚だった内田くんが、世銀評価監理局のインターンとして赴任してきた。内田くんも NBA の大ファンだったので、さっそく 4 枚 1 組のファミリーチケットを 2 組注文して、他にも世銀の職員の方を何人か誘って、オーランド・マジック戦観戦に出かけた。この日は MJ が絶好調で、1 人で 28 点をたたき出し、ウィザーズは快勝。一緒に行った人の殆どが MJ 見たさだったこともあり、皆に満足していただけた。「山田さん、また行きましょう！」ということになった。

次の目標は、2 月 27 日、去年のドラフト全体 1 位、「アジアの長城」ヤオ・ミン（姚明）のいるヒューストン・ロケッツ戦で一致している。NBA にはほとんど疎い美澄ママでも、ヤオは見たいという。またまた家族で観戦だ。そして、最後は 4 月 14 日、MJ のレギュラーシーズン最終戦である。ウィザーズがプレーオフに進出しない限り、それが MJ の引退試合となる。(浩司)

ボクはスケート、アタシはバレリーナ

子供達の新境地

厳寒の冬の間も、子供達は元気いっぱい。家の中だけにはストレスもたまるし、カロリーも消費されない。何かしら運動をさせるに越したことはない。丁度、1月は冬場のスポーツ・エクササイズプログラムが始まる時期でもあり、樹生は家からハイウェーで15分のレストンにある「スケート・クエスト」でアイス・スケートのクラス、千智もレストンの「コンサバトリー・バレエ・スクール」で幼児のバレエのクラスに通わせることにした。

千智の場合は、クラスメートのの杏奈ちゃんが先に始めたのに触発され、以前から「バレエをやりたい」と言っていた。バレシューズやレオタードを一人前に揃え、週1回のレッスンに出かけてゆく。時々茶の間で成果を披露してくれる。ターンしたりジャンプしたり、片足を後ろに伸ばし、白鳥が翼を広げて飛ぶポーズを作ったり、それなりにポイントはつかんでいて、見ていて楽しい。調子に乗って誰の前でも踊りだすのは考えものだが、本人が「やりたい」といって好きでやっている分にはいいのかもしれない。日本に帰っても続けたいと言えば、やらせてもいいかと思っている。



片や樹生の方は、この冬アイス・スケートに挑戦中である。既に数回のレッスンを終えていて、見学してる美澄ママによると、回を重ねる毎に上達しているとのことだ。パパは1月下旬の三連休に一度だけ家族連れでスケート場に出かけたことがあるが、その時点では未だレッスン1回しかクリアしていなかったわりに、既にスケートリンク内を時計の逆周りにしっかり滑っていて、ややもすると15年振りにスケート靴を履いたパパが置いてきぼりを喰うところだった。ただ単にスケートのエッジの上に体を乗せているだけという感じで、スピード・スケートのような前傾姿勢も取らず、腕振りもしてないのにスイスイ滑っていた。〔今では氷の上を土の上と同じように走れるようになりました(美澄)〕

スケートで滑る感覚が磨けたのが理由だと思うが、樹生のスキーの腕前も、この1カ月の間に見違えるほど上達した。12月末に出かけた時は、今シーズン初スキーだったこともあってか転ぶこともしばしばで、いったん倒れたら自力で立ち上がることができなかった樹生が、2月最初の週末に出かけた同じスキー場では、初心者向けの斜面を1,2回の転倒だけで軽々と下りて来れるようになったばかりか、その一段上級の斜面ですら嬉々として挑戦して、4回転倒したものの、ご覧の写真の通り笑顔で滑り下りて来た。まだターンやブレーキはあまりできず直滑降に近いが、怖がらない我が息子を見て、パパは既に追い越された気持ちがしている。スキーに連れて来るのもこれが4回目だが、だんだん投資の成果が拳がってきた気がして少し嬉しい。

パパの自己申告書(その6) お疲れさまでした日下部副総裁

1月末を以って、世界銀行における私の上司である日下部元雄副総裁が御退任された。JICAからの職員受入に最も大きな役割を果たされた方で、頼られれば嫌とは決しておっしゃらないそのご性格のお陰で、日本の開発・援助関係者にとっては非常に頼りになる存在であった。後任については財務省からの派遣はなく、内部昇格で決まった。日下部副総裁は当面当地に留まり、アメリカでのNPO設立準備の他、世銀のコンサルタントや大学での講師等をこなして過ごされるとか。長い間お世話になりました。10月の工藤職員に続き、また1人頼れる日本人職員が世銀を去って行った。これからの我が部署は、益々日本から遠ざかり、欧州シフトがより鮮明になってゆくのだろうか。先行きについて不安を隠すことはできない。
(浩司)

マッサージセラピストへの最終関門 ママ、国家試験再挑戦、結果は…

1月30日(木)、とうとう2度目の挑戦でマッサージセラピストの国家試験に合格しました。昨年の10月に受けた時は3点不足で悔しい思いをしたので今回はなんとしても受かりたかった。しかし11月12月とバタバタして全く勉強せず、1月になってから勉強を始め、1ヵ月間なるべく外出せず、コツコツと勉強しました。途中浩司さんがブラジルスクーリングで不在で大変でしたが、最後の1週間は家にこもり、書齋を占拠して好きな平井堅のCDも聞かず禁欲生活を送りました。それでも試験当日は緊張して最初の数問は問題がなかなか理解できませんでした。辞書を使っても良かったのでまだ救われましたが、時間内に全問解けるかヒヤヒヤしていたし、また落ちたらどうしようなんて考えながら受けていました。この試験はコンピューターによる四者択一問題で終了と同時に結果がでます。幸い時間内に全問目を通し、答えがあやふやだったところは見直すことができました。部屋を出たら合格と書いてある紙が既にプリントアウトされていたのを見たときの嬉しさはなんとも言えず、もう試験勉強しなくていいかと思うとホッとしました。

思えば、去年の1月学校に通い始めて丁度1年、始まる前は私には無理だから止めると言いながら通い始め、家族や友人の協力で何とか卒業し、こうやって無事国家試験に合格した事は感慨深いものがあります。ここまで支えてくれた浩司さん本当に感謝です。(美澄)

ブラジルはお土産の宝庫



パパのサンパウロスクーリング報告

1月、妻と子供を極寒のワシントンに残し、パパは南半球ブラジルのサンパウロに単身出かけた。去年4月から受講中の日本福祉大学通信制大学院のブラジル・スクーリングに参加するためだ。普段はホームページ上のディスカッション・スペースで意見交換するだけの他の受講生の人たちと実際に会い、スクーリングもほどほどに毎晩飲み歩いたのが楽しい思い出となった。

ブラジルの印象は、途上国というよりも既に十分経済発展を遂げた南米のアメリカという感じだった。サンパウロ周辺だけを見ているのだからそういう印象を持つことは仕方がないかもしれないが、昔ネパールの山村で垣間見たネパールの貧しさというのは、たとえサンパウロ

のスラムに行っても見ることはできなかったと思う。スラム住民と政府が同じテーブルについて、生活環境改善のための意見とアイデアを出し合うような話は、ネパールではあまり聞いたことがない。

ブラジルは対先進国関係では南の雄を自称するが、実際には南米大陸で最も経済が発展した国であり、同じ南米の隣国との間で、南北問題のような専制-従属の構造を作り出してはいないだろうと思う。自国からは輸出できる品目が多くあり、隣国の輸出産品の多くを自国内でも生産している。しかも生産コストは隣国よりも安いから、隣国からの輸出産品は競争力で不利な立場にある。

そんなブラジルで、日本人関係者へのお土産といえば、他の途上国と比較して非常に多彩なアイテムが揃っているように思う。ブラジル産宝石は豊富だし、化石やメノウ、水晶などはかなり大きなものが手に入る。「トルマリン」「プロポリス」「アガリクス」など、近頃日本でよく名前を耳にする鉱石や健康食品が目白押しで、しかも比較的廉価で購入できる。「トルマリン」といったら、アクセサリとしてだけではなく、ネックレスやトルマリン入りマット、枕カバー、石鹸など、健康に興味のある観光客ならつい買ってしまうアイテムが多い。私もつられてネックレスを買って着用しているが、確かに肩凝りは少なくなった気がする。「プロポリス」も、もう1つのブラジル産品である「ガラナ」入

りのタブレットを買ってしまった。毎朝数錠飲んでいるが、特に夜なべ仕事が必要になった時などには、これを飲むと頭がよく働くようになる気がする。珍味「からすみ」もよく見かけるアイテムである。

ブラジルというとすぐ「コーヒー」を連想する。確かにサンパウロ周辺はコーヒー生産の中心地であり、お土産がコーヒーになっても決して外れではないが、それ以外にもお土産になりうる産品が多く、購買意欲が非常にくすぐられる土地である。それに加えて、さすがに日系人街では日本食材が豊富で、近隣のチリやパラグアイ、エルサルバドルから参加した受講生の方も、ここぞとばかりに日本食材を買っていた。(浩司)

編集後記～山田家短信

- 1月、サンパウロに滞在している間にコツコツと原稿を書きため、さらにサンパウロから戻った後も毎日少しずつ書き加え、ウェブサイトのコンテンツをかなり充実させてきました。元々は「サンチャイ通信」のバックナンバーを随時閲覧できるようにすることが目的だったのですが、今や任期終了をこの10月に控え、これまで撮り貯めておきながら公表する機会のなかった写真も多いことから、滞米生活を記録としてまとめ、日本に持って帰る場合の良いお土産にしたいと思っています。(浩司)
- 今月一番嬉しかったのは、やはり国家試験に合格したことです。もう一つ、以前買ってきて料理に使った後、ささやかな楽しみとして観葉植物代わりに水栽培していた大根の頭（葉を切り落とした後の茎がついている部分）から、葉が出てきただけでなく蕾がついて花も咲いたことです。花は白に先端が薄紫色の可愛らしい大根の花でした。ただお水をやっただけでここまで成長したのは初めてで、何かいいことがありそうな気がしたら無事試験に合格したのです。また多摩に住んでいた時親しく付き合っていた牧野さんに第2子が無事生まれたことも嬉しいニュースでした。こうやって嬉しいニュースが続くと良いですね。(美澄)

パパの体重

84 kg
(2月5日現在)